

早稲田大学 教育学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は例年通り。ただ、分量は大幅に増加。一昨年が15ページ、昨年は11ページで、今年度は15ページに戻った。ページだけでなく、明らかに英文の量が増えている。設問、選択肢がすべて英語になったのも大きな変更か。英文自体は他の学部と比べるとやさしいままだが、とにかく分量が大幅に増えたので、難易度は時間が大変という意味で上がったと言っていいだろう。ただ、早稲田大学の中で間違いなく一番解きやすい問題と言えそう。ここ数年は社会科学系のテーマが基本であったが、今年度は人文科学、社会科学、自然科学とまんべんなくすべてのテーマが出題された。少し昔に戻った感じだ。理工学部の英語は恐ろしく難しい問題なので、合格最低点は4割台の可能性が高いが、こちらは7割程度は必要となるであろう。学部によってかなりの格差があると言えそう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	読解問題	<p>昨年の倍程度の分量。英文自体は昨年と難易度の差はないと思われる。語整序問題は文の途中から始まることが多いので、直前と直後をしっかり把握しておかないといけない。3は教育学部らしい問題。文法問題がない代わりに読解の中で文法の知識をたずねることがよくある。空所の後ろは節になっているので前置詞は不可。後ろは完全文になっているので疑問代名詞の what はダメで、疑問副詞の why なら可となる。当然内容からも解けるのだが、文法の意識も重要だ。5は同じ形から類推する。</p> <p>～bombarde d their guests with choices.</p> <p>～burden the guest with [5]?</p> <p>単語がわからなくても形は似ていると考えるのだ。全般的に今年度のリード部分は CANNOT be replaced by が多かったので注意しよう。</p>	やや易
II	読解問題	<p>読みにくい内容ではないが、昨年の英文より3倍程度分量が増えている。2の edge は最近いくつかの大学で狙われている語。「優位」の意味がある。今年度は少なかったが、単語の意味を問う問題は例年よく狙われるので、盲点となる単語の意味を整理しておくといいだろう。4の dismantled は難単語。前にある replace は A replace B 「AはBにとって代わる」のBが旧で捨て去るものというイメージを持っていれば解けるかもしれない。今年度は内容不一致問題が多かったが、7は以下のように分析するといいい。</p> <p>a. <u>DI students outperform students in English-only programs</u> in the short term.</p> <p>Students in English-only classrooms perform better in the short term, but over the long term, <u>DI students</u> catch up to their counterparts and eventually <u>surpass them</u> ~.</p> <p>outperform と surpass が同意表現であることがわかるであろうか？ 短期と長期が違う部分となる。</p>	やや易

番号	出題内容	コメント	難易度
IV	読解問題	<p>こちら分量が大幅に増えた。レベルは昨年並み。1は純粋な文法問題。間接疑問文の後ろは倒置しないという話だ。2の still は語法問題か。more を修飾すると「さらに、いっそう」の意味がある。6は熟語問題で、これは知識として厳しい。take A up on B 「AのBを受け入れる」の意味。7の下線部の意味を問う問題だが、下線部自体はなかなか理解しにくい。だが、言い換えをしている部分があることに気づけば正解できる。2行下の these changes are due to spaceflight である。表論文は同じ内容を違う表現で言い換えることはよくある。正解を導くためには重要な視点だ。9は動詞の内容をたずねているように見えるが、文法的な視点もあるといい。どれも分詞構文だが、意味上の主語は全文の主語で、the pace of biological change と「もの」が主語。どの動詞が「もの」を主語にとれるのか？ また、reaches が動詞の原形になっていないので、「命令、要求、提案など」を表さない動詞ということになる。とにかく、教育学部の読解問題は意外と文法が重要となるケースが多いことを覚えておこう。</p>	やや易
V	読解問題	<p>この大問も昨年より増えた。やや抽象的な英文なので、少し読みにくかったかもしれない。1の myriad は難単語。“fake news and myriad information sources”の並列関係となっているので、myriad が dubious や unconfirmed の意味では手前の fake の意味に近くなってしまふ。3の Here は this と同じで近くを受ける意識を持とう。事実非常に近いところが該当箇所であった。語整序問題は as early as + 数字「～もの早いときに」と He is three years of age. 「彼は3歳だ」の表現を知っていればいい。昨年は文強勢問題が出たが、今年度は普通のアクセント問題であった。やや単語は難しかった。パラフレーズさせる問題は当たり前だが少しずつ表現を変える可能性が高いことを確認してほしい。</p> <p>～a positivity bias: a tendency...selectively process information that promotes positive judgments～</p> <p>7. The positivity bias～c. a preference for positive evaluations</p> <p>副詞の selectively を名詞の preference で表しているニュアンスを感じ取ろう。judgment と evaluation の書き換えも確かにそれほど意味は変わらないのである。</p>	標準
	会話文問題	<p>会話文問題も分量はかなり増えた。レベルは昨年と変わらずであろう。教育学部の会話文問題はよくある空所補充問題でなく、会話の内容から2人の関係や立場、意見の違い、何を言おうとしているのかなどを類推させる設問が非常に多い。「この対話でマリエが怒っている理由になっていないのはどれか？」や「アンナとマリエの関係はどれか？」「マリエは以下の食べ物の中で昼食にきつと何を食べたか？」などである。ここも本文の該当箇所を正解選択肢にどう書き換えているか見てみよう。</p> <p>Marie: I like who you are too, but I still want you to do better.</p> <p>10. What does Marie think of Anna? b. She likes her but finds her frustrating.</p> <p>「あなたならもっとうまくやってほしい」＝「彼女のこともどかしいと思う」でいたい同意表現となる。</p>	標準